

農林水産業活性化のための戦略（技術開発分野）

【現状と課題】

技術開発 （技術開発、品種育成など）	研究機関 （組織・予算・人員など）
<p>本県が開発し平成 16 年以降の 5 年間で品種登録出願した品種は 11 品種にのぼる（水稻「つや姫」「里のゆき」「出羽の里」「こゆきもち」、おうとう「紅きらり」「紅ゆたか」、りんご「秋陽」「ファーストレディ」、西洋なし「メロウリッチ」、いちご「サマーティアラ」、りんどう「ハynesホワイト」）。</p> <p>また、畜産においても「平忠勝」などの優良な種雄牛や系統豚「ガッサンエル」を作出している。</p> <p>一方、育種（品種開発）には長い年月を要し、「つや姫」では交配から品種登録出願まで約 10 年かかっている。近年、数多くの品種が作出されているのは、研究資源（人員、予算）が比較的豊かだった頃の取り組みが実を結んだ結果である。将来的に独自品種を機軸とした産地戦略を展開していくためには、育種規模の拡大や先端技術の導入等により、新品種開発を協力を推進する研究環境を整えていく必要がある。</p> <p>さらには、これらの品種のメリットを最大限に発揮するため、栽培技術等の確立に向けた技術開発を強力に進める必要がある。</p> <p>生産技術等の開発については、「環境にやさしく安全でおいしい農産物」を、「安定して生産すること」を基本として取り組んでいる。今後もこの基本姿勢は変わらないが、近年は、気象変動や温暖化の影響など、地球規模での環境変化への対応の重要性がより高まっている。</p> <p>効率的・効果的な試験研究の推進については、共同研究や連携の意識の高まりに伴い、大学や独法等との連携が進み、先進的な試験研究の実施や試験研究の高度化が進んだ一面もあるが、生産現場等の要望への対応が少なくなっている。</p>	<p>研究セクションごとの研究員数が少なく、人事異動に伴う試験研究の円滑な継続に支障が生じる場合がある。各専門分野ごとに試験研究に対する期待は依然として高いが、県単予算が縮小する中では、予算規模の小さい課題が多くなり、研究効率が低下している。</p> <p>効率的・効果的な試験研究の実施には、試験研究の核となるリーダー的人材の育成が不可欠、急務である。外部資金のメニューが乏しい品種開発予算は、この 5 年間で水稻では 58%、園芸作物では、品種開発の県単予算は 63%（国庫 10/10 のおうとうを加えると 83%）まで縮小している。独自品種開発を機軸とした将来の産地戦略を考える場合、品種開発予算の拡充が必要である。</p>

【産出額拡大のための実効性のある取組】

基本方向	展開方針	具体的行動・活動	実 施 工 程			
			H21	22	23	24
現場ニーズへの的確な対応	現場ニーズ把握方法の改善	・ 要望事項の照会先を広げるなど、より多くの現場ニーズの把握に努める。	→ 体制づくり 本格実施			
		・ 農業技術普及課と連携しながら、現地調査などによるニーズの把握を行う。	→ 実施			
	現場ニーズに対応した技術開発の実施と技術の普及・定着化	・ 現場の要望に対応した技術開発を行う事業を創設する（現場が主体的に課題解決を行うもの、試験場が技術開発に取り組むもの、受託試験として実施するものなど）。	→ 体制づくり 本格実施			
シーズの効果的な活用	現場におけるシーズの発掘	・ 生産現場のシーズ、アイデア等の提案を受ける仕組み（インターネットの活用等）をつくり、技術開発のシーズとしての活用を図る。	→ 体制づくり 本格実施			
	現場導入に向けたマッチング	・ 有望視する新技術が生産現場で必要とされるものか、あるいは生産現場に有益であるかなどの事前評価を行い、本格的技術開発の実施の可否について検討する。	→ 技術開発情報の提供			
技術移転の迅速化	成果の受け手等の技術開発への参画推進	・ ニーズやシーズの提案、技術開発、開発技術の評価検討などに生産者や大学等の有識者が参画することで開発技術の完成度を高めつつ、完成前から情報提供することによって技術移転を円滑にする。	→ 準備 実施			
	研究成果の活用のモデル育成	・ 研究成果活用のモデル（地域、集団等）を、行政、普及、試験研究が一体的に取り組む。	→ 準備 実施			

気象変動（地球温暖化）への対応	試験研究体制の確立	・気象変動（地球温暖化）対応の技術開発体制を整備する。	体制検討	体制整備
	気象変動（地球温暖化）に対応した技術開発の戦略的实施（高品質・低コスト・安定生産）	・地球温暖化に対応した技術開発の方向性を定め、試験研究に必要な環境の整備や具体的な技術開発に取り組む（気象変動等の影響把握や技術開発等の情報整理を行いながら、優先度の高い課題から対応技術の開発等を行う）。	方針策定	試験研究の環境整備と実施

【技術開発力向上のための実効性のある取組】

基本方向	展開方針	具体的行動・活動	実 施 工 程			
			H21	22	23	24
研究・技術開発の質の向上と継続性の確保	研究スタッフの研究開発能力の向上	・専門領域ごとの人材育成計画を策定し、長期的配置も含めた配属を行う。	計画策定 計画の実施			
		・独法への長期研修派遣や大学等への派遣等、研究員の能力向上に有効な研修の充実強化を図る。	準備 実施			
		・大学博士課程の社会人入学制度等を利用しやすい環境整備を図り、研究員の博士号取得を推進するとともに、博士号取得者の優遇措置などを検討する。	準備 実施			
		・県の試験研究に適した研究業績の評価方法を検討する。	検討 試行			
	技術開発・研究環境の向上	・県内の他機関の分析機器等の活用を図る。 ・分析機器等の更新や新規導入により、効率良く信頼性の高いデータが得られる環境を整備する。	準備 実施			
予算の安定確保	・本県の特徴を生かすための技術開発や独自の品種開発などは、県単の予算で実施することを基本とし、それ以外の技術開発についても外部資金では実施が難しいもの等について、県単予算を充実して安定的に取り組む。	実施				